

響きあう身体、越境する音楽

森松慶子、李雅心の視点



電子オルガン・作編曲
森松 慶子

Views of Keiko Morimatsu (Ph.D.2024)

- 響きあう身体 -

*アイデンティティ模索の時間～身体性への目覚め～
●Electone Ostinato I- 砂の記憶 - (森松慶子)

*寄り添う持続音の時間～響きあう身体と身体～
●Ombra mai fu (G.Haendel)

*「交響的室内楽」の時間～二重奏としての「交響曲」～
●Piano Concerto a-minor op.16 第3楽章より抜粋 (E.H.Grieg)

*「共感」の輪郭をたどる時間～「弾く」と「聴く」の境を超えて～
●Cavalleria Rusticanaより「Intermezzo」(P.Mascagni)

*70年代に見た夢と再会する時間～記憶と夢の交差点～
●Concerto Ostinato for Electone Organ GX-1 and Orchestra
(芥川也寸志)



メゾソプラノ・音楽学

李雅心



Views of Yaxin Li (Ph.D.2025)

- 越境する音楽 -

*海を渡った響きをたどる時間
ドイツ歌曲

●An die Musik (F.Schubert)
●Ave Maria (F.Schubert)

オペラ

●歌劇『Carmen』より「Habanera」(G.Bizet)
●歌劇『Carmen』より「Près des remparts de Séville」(G.Bizet)

*記憶と再創造の時間

中国作品

●《玫瑰三願》作詞：龍七 作曲：黃自
●《閨怨》『詩經』『國風・周南』より 作曲：趙季平
●《春花秋月何時了》作詞：李煜（南唐） 作曲：王龍

2026.10.19 Mon 開演 18:00 終演 20:00

場所：神戸大学大学院人間発達環境学研究科 C111

主催：神戸大学大学院人間発達環境学研究科 学術Weeks2026 / 企画：音楽文化史研究室

問い合わせ：大田美佐子 misahta@kobe-u.ac.jp

予約不要
参加無料

演奏と研究のあいだ



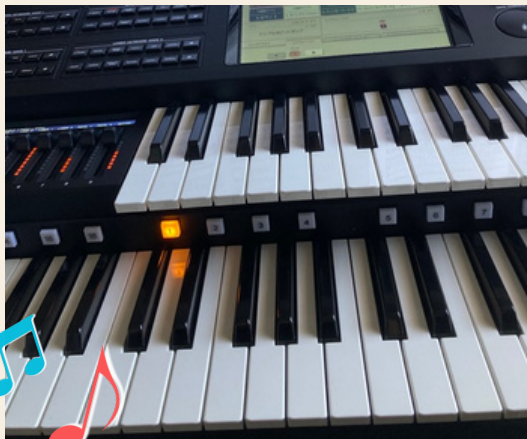
森松 慶子 (電子オルガン・作編曲)

20世紀中にお茶の水女子大学哲学科・東京芸術大学楽理科卒、同大学院修士課程修了。その後30年ほど間を空けて、神戸大学大学院大田美佐子ゼミにて一昨年博士課程修了。電子オルガンと身体性について考えながら弾いたり書いたりする沼から上がれなくなり今に至る。ヤマハエレクトーンコンクール'90全日本大会自作曲部門入賞。東京芸大在学中安宅賞受賞。現在、車に分解したオルガンを積んでは現場に出動する演奏活動と並行して、音楽ライター、アマービレ電子オルガンコンテスト事務局代表、日本電子キーボード音楽学会幹事、自宅近隣の中学・高校・学習塾の講師など務めつつ、本年度より神戸大学・大学院でのいくつかの授業を担当中。



Message

「まるで〇〇そっくり」「一人で弾いているとは思えない」と“褒め”られてしまうことが多い電子オルガン。電子オルガンではない楽器のサウンドに似れば似るほど「リアルだ」と“評価”されることもよくある。そういうところも確かに面白い楽器だが、自分が実現したいのは、そこで一人の奏者が電子オルガンを弾いている以上でも以下でもない、等身大のあり様。それが自分にとっての電子オルガンのリアリティ。そんなことを考えては弾き、弾いては書き、を40年近く繰り返すうちに「身体性」「共感」「ことば」というキーワードたちとの出会いに恵まれた。折しも世はAI大興隆中。電子オルガンのことを考える中で授かったキーワードたちは多分、現代という時代を生身の身体で生きていく上でも何かしら希望や勇気を与えてくれるものではないかと、少し大袈裟なことも考えてしまっている。



李雅心 (メゾソプラノ／音楽学)



メゾソプラノ歌手、音楽学博士。中国青島出身。神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究員。2026年4月より関西学院大学にて授業を担当。神戸大学大学院にて、大田美佐子教授の指導のもと、多文化の影響下における青島の音楽文化史研究に従事し、2025年博士号を取得。JST次世代研究者挑戦的研究プログラムおよび神戸大学異文化共創型次世代卓越博士人材育成プロジェクトに採択。研究成果は、日本・中国ならびに International Musicological Society (IMS) 東アジア大会を含む国内外の学会・学術誌にて発表している。中国、日本、オーストリアなどで演奏活動および文化交流活動を行う。2005年にはユネスコによる中国青年欧米公演団メンバーに選抜された。北京オリンピック青島セーリング競技開・閉会式への参加をはじめ、中国・オーストリア国交樹立40周年記念事業の関連公演や大阪・関西万博中国館テーマイベントなど、国内外の国際文化交流事業に出演。演奏と研究の往還を通して、音楽文化の記憶と越境性を主題とした表現活動を行っている。

Message

異なる言語で歌うたびに、同じ声であっても、その響きはわずかに変化する。西洋歌曲、中国古典歌曲、日本歌曲——音楽は、それぞれ異なる歴史や文化のなかで生まれ、人々の記憶とともに受け継がれてきた。しかし、音楽は単に国境を越えて移動するのではなく、新たな土地や時代のなかで受容され、再解釈されながら、その土地固有の文化や響きを形づくってゆく。多文化が交差する港町・青島に育った経験は、私にとって音楽の越境性を考える原点となった。青島の音楽文化史研究を通して、音楽は単に移動するだけではなく、人々の記憶や経験と結びつきながら、新たな文化や響きを生み出していくことを学んだ。演奏と研究のあいだを往還しながら、音楽がどのように時間や境界を越え、人々を結び、新たな意味を獲得していくのかを探り続けている。

濱崎 香代子 (ピアノ)

愛媛県出身。岡山大学教育学部中学音楽専攻卒業後、中学の音楽教師を経て現在自宅で音楽教室を主宰しつつ、演奏活動をおこなっている。「オーケストラと似ているかどうかだけを基準に評価されそう」という理由でコンチェルト演奏をむしろ避けていた森松が、コンチェルトに関わる自分なりの意義を見出すきっかけを作った、張本人でもある。

